

広報

やすらぎ

No.119 令和5年11月15日発行

園のふな 住民の健康を祝う集い 90歳以上の方が半数超え



皆さんで長寿と健康を喜び合う「住民の健康を祝う集い」が9月14日にふなの園地域交流スペースで開催されました。なんと入所者の半数以上が90歳以上、そのうち100歳以上になる方が4名もあり、105歳になる米澤サエさんがふなの園最高齢です。西和賀町長から祝福の言葉をお言葉を頂戴し、歳祝いに該当する方、そして全入所者の代表者に記念品の贈呈が行なわれました。出席されたご家族も隣りと一緒に受け取られ、式典終了後には記念の写真撮影。大変微笑

ましい光景でした。お昼は厨房職員が腕を振った豪華弁当でお腹を満たし、午後には祝賀会として川舟保育所の園児によるステージ

を楽しんでいきます。ここ数年はコロナ対策により映像を通してのふれあいでしたが、子どもたちのかわいいた笑顔、元気な踊りを久々に目の前で見ることができて皆さん大興奮！「あいや、めんこいでえ〜」の声が止みませんでした。来年も皆さん揃ってこの日を迎え、盛大にお祝いしましょう♪



町長からの記念品贈呈（90歳以上の代表者へ）



子どもたちのかわいいステージ



豪華弁当とおしながき

収穫の秋を満喫

10月中旬、恒例の落花生とサツマイモの収穫を行ないました。酷暑で何度か枯れそうになりながらも頑張ってくれたことに感謝。収穫当日、皆さんは手慣れた様子でせっせと掘り進め『だいなもの出だど!』と掲げて見せてくださいました。暑さのせいか落花生の実は少なめ、サツマイモは小ぶりでしたが味は良し!落花生は塩茹でして美味しくいただきました。(サツマイモはまだ寝かせてあります)これから冬を迎え、どのような寒さになるかわかりませんが、美味しいものを食して脂肪を蓄え、冬に備えたいですね。

デイサービスぶなの園



でっかいのゲット!

3年ぶりのふれあい

かたくりの園では9月21日と22日に敬老会を行ないました。今回は3年ぶりに保育所の子どもたちをお招きしての開催です。式典の部では長寿番付として最高年齢の発表や、記念品の贈呈を行ないました。祝賀会では21日は新町保育所、22日には梅檀保育所の子どもたちとふれあうことができ、利用者から「上手だごど」、「めんこいなあ」などの声が聞かれました。その他、利用者と子どもたちが一緒に考えて答える「ご長寿クイズ」を行ないました。皆さん首を捻りながらも真剣に考えて答える姿が印象的でした。

デイサービスかたくりの園



子どもたちの笑顔が何よりの喜び

■3年間、ありがとう。10月末、モンゴルからの技能実習生1名の送別会が開催された。この間、介護技能と日本語能力の試験を無事クリアしての帰国となった。彼女は19歳の若さで「日本人と働きたい」という大きな目標をもって訪日。施設では、価値観の異なる外国人を受入れるため、介護技術だけでなく生活支援まで目標に掲げ、培ってきた教育スタイルを発展させるいい機会となった。主任・副主任からなる支援チームは、フィードバック(振り返り)を繰返し「確認」から「気づき」を促し、「行動」につなげるというスタイルを実践してくれた。「心が折れそうになったことも」というが、担当してきた職員の成長も見逃さない。送られる本人だけでなく職員にも「やり切った」という達成感に満ちた送別会。人材不足からの受入れだったが、コロナ禍の中で大きな財産を残してくれたことに感謝。



取り組みを10分間に凝縮して 事例研究発表会

今年度の事例研究発表会は10月20日、町健康福祉課長の新田由香里様、社会福祉協議会総務企画課長の廣田宏様に審査員をお願いして開催されました。この発表のために特別な研究をしたというのではなく、「これ、どうにかならないかな」というちょっとした問題にアイデアを出し合っただけで、援助の過程で様々な困難と向き合ったことを振り返り、そこから学んだことを発表した、という内容がほとんどです。施設福祉課と在宅福祉課から2組ずつ、かたくりの園から1組の計5組の発表でしたが、10分という短い設定時間の中に伝えたいことをギュッと凝縮し、表現方法にも工夫が見られました。審査結果は最優秀賞がかたくりの園、優秀賞が厨房チーム。でも、審査員の講評ではすべてのチームに良い評価をいただきました。

今年度の事例研究発表会は10月20日、町健康福祉課長の新田由香里様、社会福祉協議会総務企画課長の廣田宏様に審査員をお願いして開催されました。この発表のために特別な研究をしたというのではなく、「これ、どうにかならないかな」というちょっとした問題にアイデアを出し合っただけで、援助の過程で様々な困難と向き合ったことを振り返り、そこから学んだことを発表した、という内容がほとんどです。施設福祉課と在宅福祉課から2組ずつ、かたくりの園から1組の計5組の発表でしたが、10分という短い設定時間の中に伝えたいことをギュッと凝縮し、表現方法にも工夫が見られました。審査結果は最優秀賞がかたくりの園、優秀賞が厨房チーム。でも、審査員の講評ではすべてのチームに良い評価をいただきました。

チーム名(所属)	発表テーマ
1. Hisayo Tonic (施設福祉課)	『皮膚トラブルをブロック』 ～かゆいのかゆいのとんでいけ～
2. going my way (施設福祉課)	『ドリップ問題の解決方法』 ～住民のためのよりよい食事の提供を目指して～
3. 5G (在宅福祉課)	『明日も利用者を受け入れるために』 ～デイ休止から学んだ感染マニュアル作成への取り組み～
4. Nっ3+T (在宅福祉課)	『Aさん宅の場合』 ～老老介護から見えるもの～
5. CCB (かたくりの園)	『めぐり逢い』 ～生きる活力～

法人の内部研修としても、横の連携につながる非常に充実した事例研究発表会となりました。



他事業所から学ぶことも多々

菊池キサさん 祝 100歳

11月4日、ぶなの園に入所している菊池キサさんが100歳の誕生日を迎えられました。西和賀町から祝い状と記念品が贈呈されるとのことで、この日に合わせキサさんのご家族、ご親族が各地から大集合してくださり、その数なんと20名以上。町長に代わって副町長から祝い状、記念品、花籠が贈呈され、ご家族と一緒に受け取っていただきました。また、達増知事と岸田総理大臣からの祝い状と記念品も届いており、施設長が代読しお渡ししております。キサさんとの記念写真は入れ替わり立ち替わりで数えきれないほど。そして全員で撮影した写真は、祝福の華やかなムードと家族のあったかい雰囲気が伝わる素敵な画になりました。午後にはホーム喫茶を実施して、キサさんには特大のパーズデーケーキを準備し、入所者の皆さんでお祝いしました。大切な家族や多くの仲間祝福され、きっとキサさんも幸せな気分だったことと思います。



副町長から祝い状を受け取るキサさん



ご家族が大集合し100歳を祝福

あたたかい
善意
を頂戴し厚くお礼申しあげます

令和5年9月1日～10月31日

【ご寄付】

・匿名様

【ご寄贈】

- ・藤田 重信 様
- ・深澤 陽子 様
- ・高橋 淳子 様
- ・深澤 信哉 様
- ・教育振興会志賀来実践班 様

【ボランティア等】

- ・新町保育所 様
- ・梅檀保育所 様
- ・川舟保育所 様



『和賀川』の記事に関連しますが、技能実習生のアンハさんの送別会は別れを惜しむ涙、そして感謝と激励の笑顔が入り混じった感動的な時間となりました。日本に来て間もない頃の映像や思い出の写真で振り返った3年間。大きく成長したアンハさんは、新たな目標に向かって突き進んでいくことでしょう。忘れないよ。忘れないでね。



職員に感謝を伝えるアンハさん

あしあと

【9月】

- 5日 出張理容
- 6日 沢内中職場体験
- 7日 沢内中職場体験
- 11日 出張理容
- 13日 在宅第三者評価委員会
- 14日 住民の健康を祝う集い
- 15日 広報やすらぎ発行
- 22日 秋の彼岸法要（碧祥寺）
- 25日 介護の魅力促進出前講座

【10月】

- 2日 生活支援ハウス入居選考委員会
- 10日 出張理容
- 17日 嚙下機能改善調査
- 19日 生活支援ハウス入居説明会
- 20日 事例研究発表会
- 24日 秋の味覚定食
- 25日 出張理容
- 27日 法人内部監査
- 31日 理事会

法人の主な動き

やすらぎ会ホームページ
最新情報更新中!!

右のQRコードを読み取れば、スマートフォンでも簡単に閲覧できます。ぜひのぞいてみてくださいね♪



<http://yasuragikai.com/>

編集後記

あんなに続いた記録的な暑さもどこへやら。気づけば木の葉は色を変えて秋模様。あつという間にやってくるであろう冬の足音に待て!と言いたい気持ちですが、冬タイヤを履かせた車で準備は万端。コタツも出して冬を迎えます。

やすらぎ会広報委員会

- 神 信行 佐々木典子
- 高橋 正広 柴田 望

- 特別養護老人ホーム ぶなの園
- デイサービスセンター ぶなの園
- ホームヘルプステーション ぶなの園
- 西和賀介護相談室
西和賀町沢内字太田2地割135番地
電話0197-85-2322 FAX0197-85-2317
E-mail bunanosono@swc-yasuragikai.or.jp
- 高齢者生活福祉センターかたくりの園
西和賀町沢内字大野17地割140番地1
電話0197-85-3388 FAX0197-85-3389

【発行・編集】 社会福祉法人やすらぎ会 広報委員会